

三浦梅園(1723~1789)はなぜと思ったことをとことん考え抜いて、天地の条理を漢文でしたためた哲学者。豊後聖人とも言われた。

大分県国東市安岐町にある「三浦梅園資料館」と旧宅を訪ねた。

なぜ、哲学者を訪ねたのか。

それは、彼と今までレポートを続けてきた麻田剛立との関係を知るためだった。

おりしもテレビ番組「ガリレオX」300回記念 三浦梅園の宇宙論 近代日本天文学のはじまり

として、取り上げられていた。

<https://www.web-wac.co.jp/program/galileo/miurabaien>

「日本のレオナルド・ダビンチ」とも、「日本最大の哲学者」とも称される彼の哲学は江戸時代の天文学に大きな影響を与えた。しかし、彼は科学者ではなかった。その研究を科学へシフトするには、もう1人の天文学者・麻田剛立との交流が必要だった。日本初の精密な月面観測やケプラーの法則の独自発見など、2人が協力しあうことによって天文学史に残る重要な成果が達成されたと考えらる。梅園が探求した宇宙の法則とは何か。東洋の思想をベースに宇宙の仕組みを探った。

なぜ、麻田剛立と三浦梅園が知り合ったのか。

それは麻田剛立の父親が儒学者であり、その父に三浦梅園が学びに来ていたからだ。梅園は剛立より11歳年上である。

